

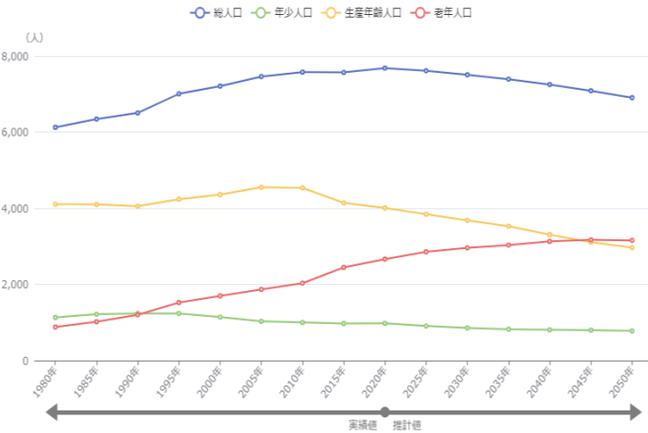
RESAS

を分析してみよう

長野県
原村

RESAS (地域経済分析システム) は、地域経済に関する様々なデータ (産業の強み、人の流れ、人口動態など) をグラフで分かりやすく「見える化 (可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

人口



*人口マップ→人口構成分析→人口推移

人口ピラミッド

2020年、2050年の人口ピラミッドは共に「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の34.7%から2050年には45.7%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の52.2%から42.9%まで減少する見込みである。

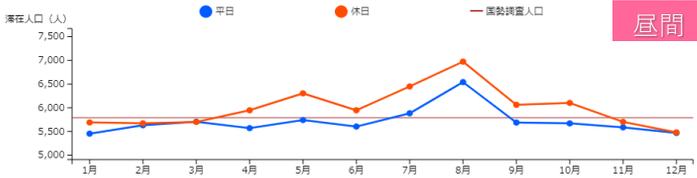
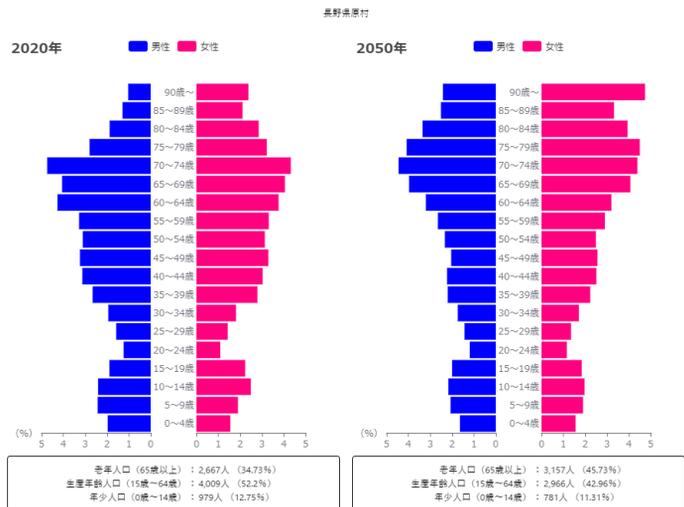
*人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド



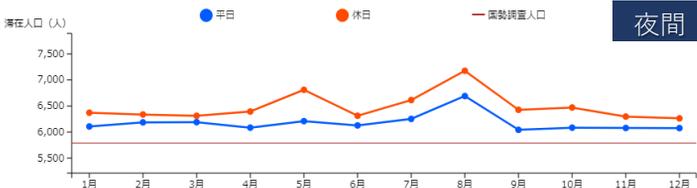
年齢別人口推移

2020年の人口は総人口7680人。20年前 (2000年) の7207人と比較して約6.2%増加した。しかし今後の予測は緩やかな減少傾向になる見込みである。年齢別に将来の傾向をみると、年少人口と生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、老年人口は65歳以上をさす。



昼間



夜間

滞在人口

(2022年、上：昼間、下：夜間)

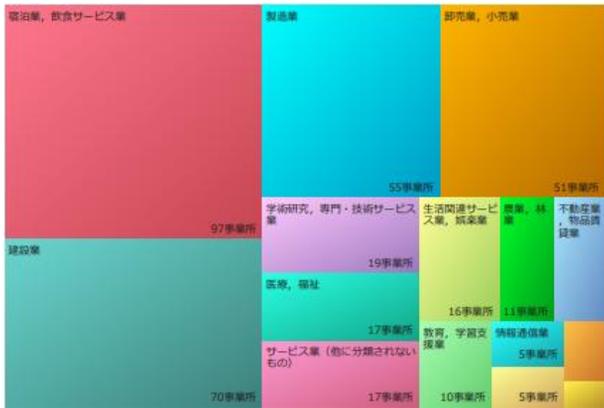
昼間人口と夜間人口を月ごとに比較したグラフである。平日の人口を見ると、昼間人口と夜間人口に大きな違いが見られないことから、他の市町村への通勤・通学者数 (流出人口) と他の市町村からの通勤・通学者数 (流入人口) が同程度であることがわかる。

※昼間は14時、夜間は20時のデータ

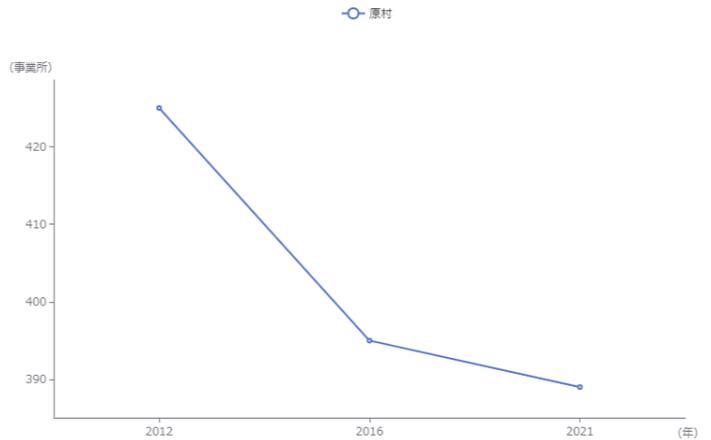
*まちづくりマップ→滞在人口率

産業構造

事業所数(事業所単位):389事業所



*産業構造マップ→全産業→全産業の構造



*産業構造マップ→全産業→事業所数

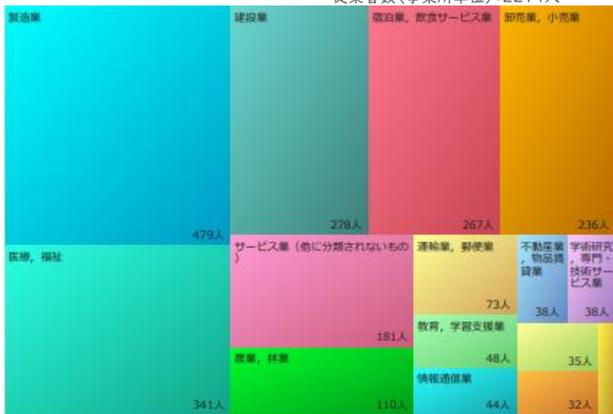
事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

業種ごとの事業所数を面の大きさで示したグラフである。もっとも多いのは「宿泊業・飲食サービス業」の97事業所で、全体の24.9%を占めている。その後「建設業」の70事業所18.0%、「製造業」の55事業所14.1%が続く。

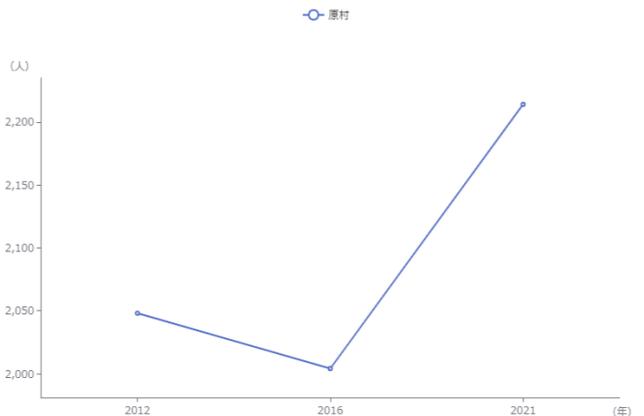
事業所数の推移

事業所数の推移をみる。2021年は389事業所。9年前の2012年と比較すると425事業所だったので8.4%減である。

従業者数(事業所単位):2214人



*産業構造マップ→全産業→全産業の構造



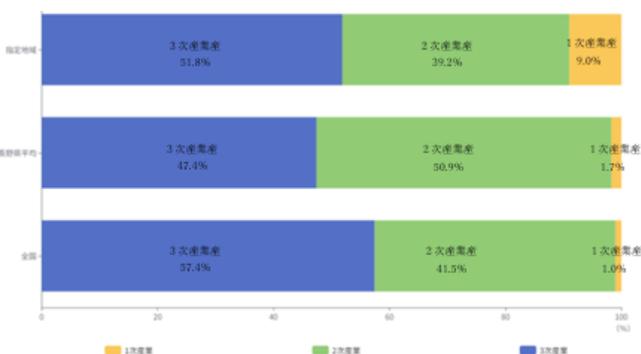
*産業構造マップ→全産業→従業者数(事業所単位)

従業者数(2021年)

業種ごとの従業者数を面の大きさで示したグラフである。もっとも多いのは「製造業」の479人で、全体21.6%を占めている。その後「医療、福祉」の341人の15.4%、「建設業」の278人の12.5%が続く。

従業者数の推移

従業者数の推移を見る。2021年は2214人、9年前の2012年と比較すると8.1%増である。



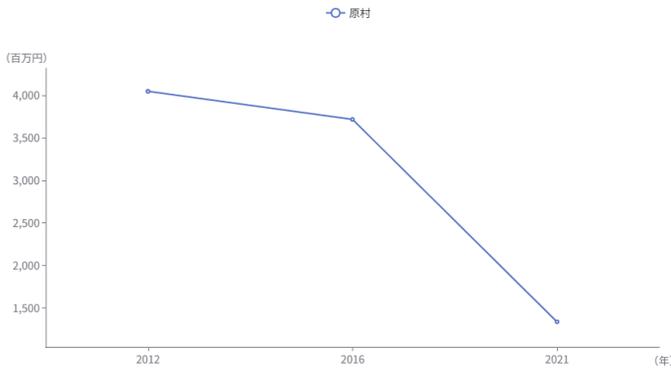
*地域経済循環マップ→生産分析

地域内産業の構成割合(2022)

原村の産業の構成割合を全国および長野県と比較したグラフである。3次産業の割合が51.8%であり、長野県平均の47.4%と比べて高い。一方、2次産業の割合は、39.2%と長野県平均の50.9%と比べて低い。

- *1次産業・・・農業、林業、漁業など
- *2次産業・・・製造業、建設業、工業など
- *3次産業・・・商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業、外食産業・情報通信産業など

卸売業・小売業



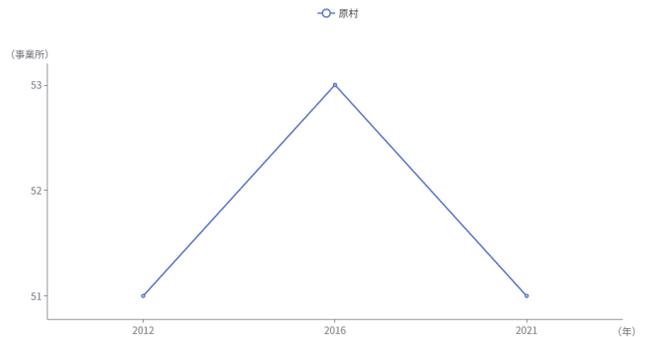
*産業構造マップ→産業構造分析→売上高(企業単位)→小売業・卸売業

売上高（企業単位）の推移

卸売業・小売業の売上高(企業単位)の推移を示したグラフである。
2021年の販売額は13.3億円である。9年前の2012年と比較すると40.4億円なので、67.0%減である。

事業所数(卸売業・小売業)の推移

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。
2021年の事業所数は、51事業所である。
9年前の2012年と比較すると同数。5年前の2016年と比較すると2事業所の減となっている。



*産業構造マップ→産業構造分析→事業所数(事業所単位)→小売業・卸売業

製造業



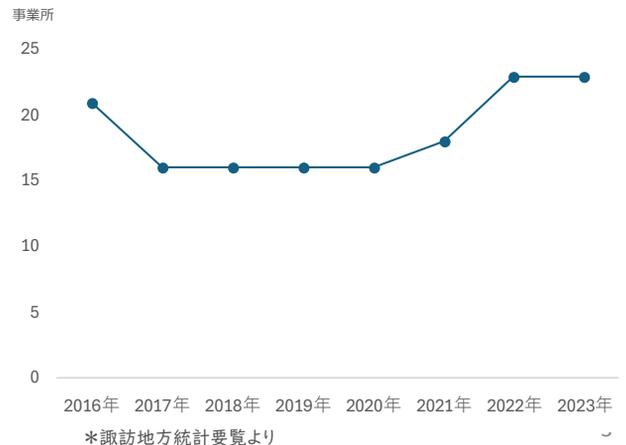
*諏訪地方統計要覧より

製造品出荷額等の推移

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。
2022年製造品出荷額等は、約47億円である。近年のピーク時(2017年)と比較して47%減である。

事業所数（主要製造業）の推移

主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。
近年は増加傾向である。



*諏訪地方統計要覧より

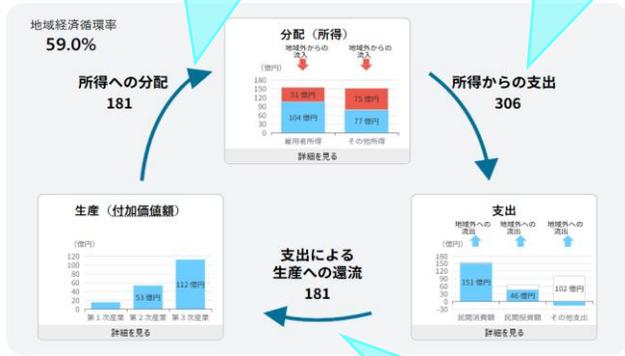
地域経済循環

地域経済循環図 (2022年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。

①原村の企業は合計181億円の付加価値を生み出している。

②付加価値のうち、支出に回されるのは、306億円。



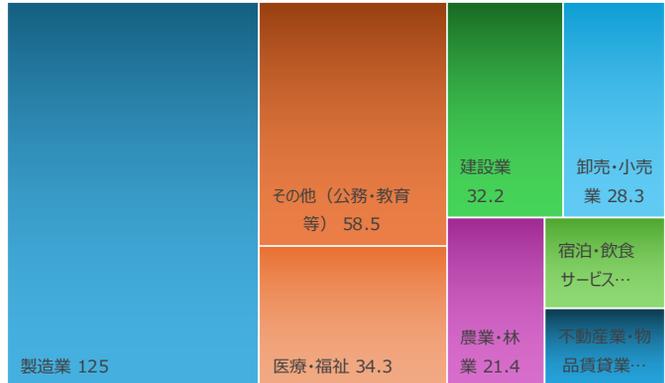
*地域経済循環マップ→地域経済循環分析

③市内で支出に使われた金額は181億円。

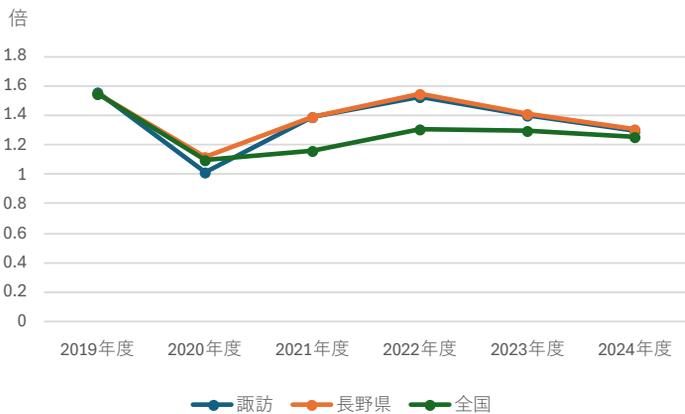
生産分析 (2020年)

付加価値額の内訳を大きさで示したグラフである。付加価値額が高いのは「製造業」で全体の38%で125億円である。

付加価値額計:326億円



雇用 (諏訪地域)

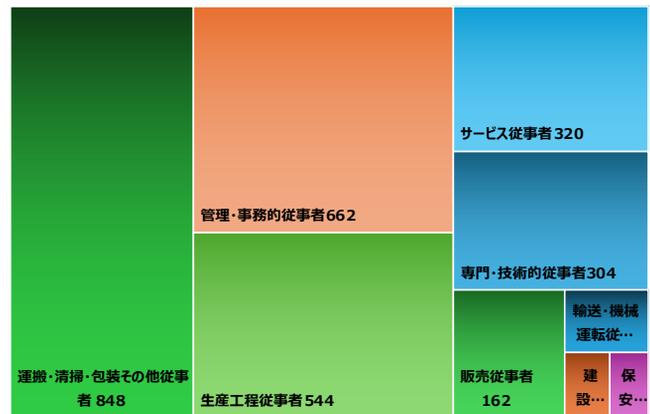


*厚生労働省資料より

有効求人倍率 (2024年)

諏訪地域の平均有効求人倍率を長野県と全国を比較したグラフである。2024年度の諏訪地域は1.29倍であり、全国平均の1.25倍と比べると高いが、長野県平均1.31倍と比べると低い傾向である。2020年度の落ち込みは新型コロナウイルスの影響を受けた結果と考える。

有効求職者数(総数):2,960人



*厚生労働省資料より

有効求職者数 (総数) (2025年12月)

業種ごとの有効求職者数を面の大きさで示したグラフである。もっとも多いのは「運輸・清掃・包装その他従事者」の848人で、全体28.6%を占めている。その後「管理・事務的従事者」の662人の22.4%、「生産工程従事者」の544人の18.4%が続く。

